

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚原発扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Lymph node metastases from cutaneous squamous cell carcinoma of the head and neck</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ9-12、SCC-CQ10-5	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I V )	
	Pubmed ID	16148695	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Laryngoscope	
	雑誌 ID		
	巻	115	
	号	9	
	ページ	1561-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	2005 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Moore BA	MDアンダーソン癌センター
	その他著者 1	Weber RS	同上
	その他著者 2	Prieto V	同上
	その他著者 3	El-Naggar A	同上
	その他著者 4	Holsinger FC	同上
	その他著者 5	Zhou X	同上
	その他著者 6	Lee JJ	同上
	その他著者 7	Lippman S	同上
	その他著者 8	Clayman GL	同上
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	皮膚原発扁平上皮癌で領域リンパ節転移を来した症例の予後を検討する。		
	研究デザイン	コホート研究（前向き試験のサブセット解析）		
	セッティング	MDアンダーソン癌センター		
	対象者	臨床試験に登録された 210 例のうち頭頸部原発例が 193 例 リンパ節転移陽性：40 例、陰性：153 例 部位：耳下腺部(12 例)、顔面(9)、頬(5)、鼻(5)、頭皮(3)、頸部(3)、 下口唇(2)、上口唇(1)		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)		
	介入（要因曝露）	原発巣切除＋頸部郭清＋放射線療法：19 例 原発巣切除＋放射線療法：10 例 原発巣切除のみ：4 例 原発巣切除＋頸部郭清：3 例 放射線療法単独：2 例		
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分	
		1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	主な結果	領域リンパ節転移は予後（不良）に強く相関していた。 脈管侵襲、低分化型、皮下組織への浸潤、周囲神経への浸潤、大きな腫瘍は予後不良。 手術＋放射線療法は領域リンパ節の制御は 95%と良好であるが、局所および遠隔転移が多い。		
	結論	上記のような予後不良因子を有する症例では手術＋放射線療法が必要であろうが、さらなる成績の向上のためには新たなアプローチが必要。		

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	レベル I V